

行事名称	第107回技術者倫理研究会 例会
開催日時	2023年9月12日（火曜日）18:30～20:30
開催場所	機械振興会館6-64（定員15名）、Web中継、各地域本部等
主催	公益社団法人日本技術士会登録 技術者倫理研究会 engineeringethics-studygroup
参加者	全国で105名参加（うち北陸本部参加者13名）
演題	技術者倫理の講義における事例研究について
講師	坪井 秀夫氏（応用理学）
講演資料	あり
内容	<p>講師の坪井氏は、非常勤講師として大学で技術者倫理を教えており、技術者倫理を学ぶ上で大切なのは「事例研究」であると考えている。</p> <p>大学で行った15回の講義の中で、特に注目している事例は、理研のSTAP細胞事件、東芝機械のココム規制に関する外為法違反事件である。</p> <p>STAP細胞事件に関するキーワードは、捏造、改ざん、盗用、および実験ノートで、東芝機械の事件に関するキーワードは、外為法、およびコンプライアンスと考える。</p> <p>コンプライアンスは、通常「法令順守」と訳されているが、英和辞典の一番目の訳（第一義）は「応諾」であり、この「応諾」について講師の考えている内容を解説、また大学での講義を行っている中で、学生から出てきた秀逸な質問についても紹介する。</p>
所感	<p>技術者倫理の講義の中で、特に法的責任とモラル責任、外為法、コンプライアンスと規制行政、論文捏造は、なぜ起こるのか？を 中心として講師の御経験に基づいたお話で、大変判り易い講習会であった。</p> <p>特に学生から出た「倫理観について、国によって違いはあるのか」という質問には考えさせられた。今回の講義では、特に『応諾』に焦点を宛てられ、大変参考になった。</p>
記入者：2023. 9. 18 倫理委員会 阿部治彦	